GOVERNOR'S MONTHLY COMMUNICATION

Rotary

2015－16年度　国際ロータリー第2790地区（千葉県）

ガバナー月信

Be a gift to the world

地区行動目標：原点を知り、考える

2016年 5 月号

発行／2016年４月１日 VOL.11

COPY FOR MEMBERS

青少年奉仕月間

2015-16年度、米山記念奨学生奨学金終了式／ほてい家　2016.3.12

慣例と変革

慣例の意義

以前に、あるクラブのある人から「慣例について書いてほしい」という要望を頂きました。その意は慣例を是とするか非とするかという事だと思います。

慣例は過去の経験値を形にしたものであり、過去の運営のエッセンスであります。よって、物事をどうやろうか?と毎年悩むことなく実施に入れる便利なシステムだと思います。組織も長く続くと各年代によって違う考えがあります。そこで慣例に従えば異論なく纏まるという非常に有難い仕組みでもあります。

一つ目の落とし穴

一方でそこに落とし穴もあります。一つは、これだけが正しいと考え、新たなやり方の提案を受入れなくなるという事です。慣例となった過去の事例も、それを初めてやる時にいくつかの選択肢の中から一つを選んで決めたはずです。どの選択肢をとっても間違いではないが、その時の種々の事情によって一つを選択したものです。しかしそれが数年続くと唯一絶対の存在と化してしまいます。

二つ目は

物事の本来の意義を考えなくなることです。物事の始めの時は目的と意義を充分に考えた上で一つの方法を選択したはずです。それが継続すれば慣例となり、長い間には慣例通りの事を実施するという行為だけが神聖化され、考え直してみるという努力と工夫をしなくなります。

厄介なのは…

もっと厄介なのは人の問題です。慣例に従って物事を行ってきた人はそれが最上だと思って決めた事であり、それは当然であり、且つ結構な事です。しかし、慣例と異なるやり方が提示されると、その内容を比較検討するよりも、慣例＝自分を批判否定されたと思って新提案を拒否する、こういう人がクラブにいるのではないでしょうか。従来の意識も年代によって程度がありますが、新しい提案に対しては大同団結して対決するという構図はないでしょうか。

敢然と寛容

物事を企画する人は定期的にその意味合いを考えてみる事をお奨めします。今の時点で何が必要か?という観点で検討した結果が慣例と違っても敢然とその検討結果に従い、周囲は寛容でそれを受入れる事が必要ではないでしょうか。ロータリーでは数多い考え方がロータリーの基本に適合していれば全てが正解であり、その全てを是として受け入れる事が「寛容」でしょう。

不易流行と組織

大事な事は判断基準をどこに置くかです。「不易と流行」という言葉が安易に使われますが、不易と流行の線引きをどこに置くのか?実は非常に難しい言葉であり永遠の課題を惹起する言葉でもあります。誰でも自分の考えに自信があり、自分の考えが正しいと思います。しかし、そういう人が大勢いるのが組織です。自分の考えだけが唯一絶対ではないことは確かです。年代が違えば判断基準も違って来るものです。

今の若い者は…

エジプト遺跡の壁に「今の若い者はしょうがない」という、古代の落書きがあったとか。笑い話なのか真実なのか判りませんが。

国際ロータリー第2790地区
2015-16年度ガバナー
櫻木　英一郎
（千葉RC）

原点を知り、考える

ロータリーの両輪

国際ロータリー第2790地区
2015-16年度ガバナー　櫻木英一郎
（千葉RC）

■ロータリーの両輪とは？

「ロータリーの両輪は？」と問うと多くの人が「親睦と奉仕だ」と答えるでしょう。これは一理あると言えます。“一理ある”という言い方はこのように固い信念を持っておられる方々には大変に失礼な言い方になると思います。しかしこれには理由があります。

■親睦とは何か？

“一理ある”の理由の一つが、親睦と言う言葉の意味です。真意を皆さんが理解しているでしょうか？親睦の真意は月信の１月号に書きました。面白おかしく楽しむのが親睦ではない。ゴルフや飲み会を企画するのが親睦活動委員会ではない。親睦とは仲間意識を醸成する事だと。仲間意識を醸成するための活動を企画して会員に提供するのが親睦活動委員会です。

■仲間意識が何に繋がる？

仲間意識があるから組織が一つになれます。活動を起こす時の力になれます。皆が団結できます。私どもの千葉RCは２月に地区大会のホストクラブとして皆が一つの目的に向かって団結しました。それぞれの担当者が自分たちの受け持ち範囲を最高のものにすべく皆が努力しました。協力し合いました。これも仲間意識の醸成の為に大きな機会でありました。これを考えると、仲間意識の醸成は色々な手段があることに気づきます。親睦を真剣に考えると非常に奥が深いものです。

一方で、仲間意識の究極は相互扶助です。アメリカの例ですが、会員が入院したらその面倒や残された家族や子供の支援や精神的なケアをやるのが親睦活動委員会だという記事を読んだことがあります。これこそがfellowshipだと思います。

■奉仕とは？

また、疑問なのは奉仕という言葉の真意もです。これが難問です。ロータリーに於ける奉仕の原語はserviceです。このserviceという言葉を現代日本語に於ける“奉仕”という言葉に簡単に置き換える事が出来るのか？という問題です。端的に結論を言うと、それはNoです。では奉仕ではなくサービスならどうか？悲しいかな現代の日本語に於ける“奉仕”も“サービス”も正確に英語のserviceの訳語にはなり得ません。

日本では“サービス”は買い物をするときに値引きさせる意味となり、またお店のオヤジがおまけをつける意味となり果てました。奉仕にしても“ご奉仕価格”などに使われます。その少し元の意味で奉仕とは、無償で労力提供をすると解釈される場合が圧倒的に多いです。これもserviceの意味とは違い、奉仕の本来の意味とも違います。

■“奉仕”の本来の意味は？

奉仕という言葉は結構古い言葉で室町戦国期には広く使われていました。その本来の意味から考えると鎌倉時代からあった言葉だと思います。この言葉の元々の意味は“仕え奉る”で、主君に臣従して役務を果たすことです。侍奉公でも丁稚奉公でも、それは厳しいものであったと思います。時間的にも身体的にも滅私奉公という言葉がある位です。しかし、まちがえてはいけないのは役務提供の奉公の裏付けに碌、土地、給金などの対価は必ずありました。奉公、奉仕という言葉にはこの要素が含まれています。決して無償奉仕ではありませんでした。そして、これこそが英語のserviceに近い解釈です。言葉が発生した状況が同じだから意味も同じくなるのでしょう。そしてシェルドンたち英語民族は英語の語感を用いてロータリーにserviceという言葉を持ち込んだと思います。

■“一理ある”のもう一つの理由

兎も角、私はロータリーの両輪が言葉の定義が定まらない「親睦と奉仕」であることには全面的には賛成していません。皆さんのご意見は如何でしょうか？月信をletterではなくcommunicationに改めました。皆さんのご意見を投稿して下さい。

我々が何かをやる場合を考えてみます。先ず「何の為に」という理由があり、「どのようにやるか」を考えてから行動に移ります。例えば、空腹を満たす為に、和食、洋食、はたまたラーメンかを考えてから目指す食堂に行きます。目的→方法論→行動の流れです。

ロータリーの活動も同じ事です。先ずは目的を考えます。ロータリーの目的はクラブ定款の第４条に定められています。特に前文に「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し・・・」とあります。これが本文です。ロータリーの目的は「奉仕の理念」を推奨する事にあります。

■目的の前文の「事業」とは？

ここで気を付けなければいけないのは前文にある「事業」という言葉の解釈です。この「事業」を仕事、職業だと解釈する人が少なくないと思います。しかし、英文を見ると、本文の事業にはenterpriseという言葉を使っています。本文の下にある各論の第３項にある「事業」はbusinessという単語です。日本語では同じ「事業」でも原典の英文では、本文と各論第３項では違う言葉を使ってハッキリと区別しています。

■「事業」の違い

本文の事業（enterprise）とは仕事を含んだ個人のあらゆる活動を指すと解釈べきではないでしょうか。会員のあらゆる活動に於いて奉仕の理念を奨励する事がロータリーの目的だと考えます。これは日本語訳の問題だと思います。また、「奉仕」という言葉の意味合いは前号に書きました。

■目的の次の方法論と行動は

奉仕の理念を推奨する、という目的の次は方法論です。方法論の概念的な例が第４条本文の次の各論です。４項目が挙げられています。そしてその次の段階である実際の行動は定款第５条にある五大奉仕部門に書かれています。定款の第４条、第５条にロータリーの目的→方法論→行動が書かれています。大きく分けると第４条が理念や考え方、第５条が実際行動です。考え方という理念を基礎として実際行動である実践が生まれます。

■ロータリーの両輪とは？

ここまで来ると私の言わんとする事が察せられると思います。私が考えるロータリーの両輪は「理念と実践」です。ロータリーの理念を以てロータリーの実践行動をする事だと思います。また、他の団体にはそれぞれの理念と実践があるでしょう。我々の組織であるロータリーはロータリー独自の理念を以てロータリー独自の実践活動をする事だと考えます。

■昔の人は言いました

その理念はどこで学ぶのか？それは例会です。その実践活動はどこで学ぶのか？それはクラブの活動です。そして一番大事なのはクラブで学んだ理念と実践の例を以て会員個人が自分の個人的な活動でそれを実践する事です。米山梅吉翁は「例会は人生の道場」と言われました。これには色々な意味があると思います。1923-24年のRI会長ガイ・ガンディカーは「入りて学び、出でて奉仕せよ」という言葉を残されました。例会で理念を学び、実社会に出て会員がそれを実践せよという意味だろうと考えます。

■入りて学び、出でて奉仕せよ

この言葉はシカゴ郊外のエバンストンにある国際ロータリー本部の入り口に掲げられているという事です。全世界のガバナーエレクトが一堂に集まって研修を受けるサンディエゴの国際協議会会場の入り口にもありました。当地区内のクラブにも例会場の入り口や会場内にこの言葉を掲げているクラブがあります。ロータリアンの心得としてこの言葉を銘したいと思います。また、本年度の地区組織もこれを意識して理念研究委員会と奉仕プロジェクト委員会を分けて配置しました。

■では、「親睦と奉仕」は？

これも立派な両輪ではありますが、これはクラブ運営上で重要な２つの要素だと思います。また、クラブとしての団体活動を考える場合は会員の親睦による団結力をもって奉仕活動に進むという意味もあるでしょう。活動面での重要な両輪であると思います。但し、その際には親睦・奉仕の言葉の真意を充分に理解して頂きたいと思います。

■どれも一つの考え方

色々な観点からロータリーの両輪が考えられるでしょう。何時も言うように私の論は私個人の持論であり、皆さんは皆さんの持論を大いに信じて実践して頂きたいと思います。枠が非常に広いロータリー理論から外れていない限りは全てが間違いではない。これが「ロータリーに正解なし」だと思います。

一年を振り返って

管理運営委員会
委員長　金子　公久
（成田コスモポリタンRC）

早くもこの一年を振り返る時節を迎え、改めて管理運営委員会の軌跡を振り返って見ました。

櫻木ガバナーは地区活動方針を、「**原点を知り、考える**」と挙げられました。PETSでは、具体的な地区の活動目的を、「クラブの会員全員が慣習や運営方法を見直し、刷新を図るという意識を持つことが大事である。」と要請されました。それに呼応し私たち６名の管理運営委員は、クラブにお役に立つ地区委員会活動としてクラブのサービス機関の為、「**クラブの相談窓口**」を開設する計画（Plan）に苦慮致しました。

昨年７月に、地区ホームページ上の項目に、「**クラブの相談窓口**」と呼称する相談の受け皿を整え、各クラブに利用を呼びかけました。これがクラブ支援に向けた実行（Do）です。

私たち地区委員会の活動は、常にクラブの皆様と同じ立ち位置で相談案件も各クラブに寄り添う形で依頼内容に思いを巡らし、また、他委員会との連携を図り、回答書を整える活動に努めました。回答書の文責はガバナーの権限移譲を受けて委員長名で臨むことで、櫻木ガバナー構想の活動支援が整いました。相談案件は相談事例として地区ホームページの委員会情報で開示することで情報の共有化が図れました。なお、皆様方からの相談事例ご紹介は紙面の関係で省略しますが、地区ホームページを閲覧下さりクラブの管理運営の一助にご利用いただければと存じます。こうした積み重ねを経て各クラブに応じた活動支援が適いました。

ところで、これら活動への評価（Check）は、私たちは元より地区内クラブの皆様のお役に立てるサービス機関としての「クラブの相談窓口」が果たしたクラブに寄り添う活動への効果が気になるところです。

さて、一般的に企業は、管理業務の円滑化の為にPDCAサイクルを活用し、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）の後には、当然Learn（学ぶ）が伴いその結果として改善（Act）に繋がり計画（Plan）に戻り、効率の良い管理業務が継続的に改善されます。

このように捉えて見ると、皆様のクラブでも是非管理運営（クラブ奉仕）委員会の活動には、常にこの様なPDCAサイクルに準じたクラブの評価に留意を下さり、前年踏襲ではなく日々が過度期と捉えて、徐々に見直しを行い「**元気のあるクラブ**」作りの活性化に邁進下さる意識の高揚になれば、活動を共にしてきた委員一同幸いに存じます。

一年間関係各位のご尽力に深謝致します。

一年を振り返って

地区会員増強･退会者防止委員会
委員長　北原　俊彦
（千葉南RC）

今年度は、櫻木ガバナーの強い方針で「会員増強・退会者防止」が打ち出されました。この方針にどの様な活動をすればよいのか、地区での活動が初めての私は戸惑い悩みました。３名の委員を指名し、４名体制で成功に向けて何をすれば良いのか話し合いました。その結果、「増やそう友人・尽くそう社会に」をキャッチフレーズとして会員に訴えていくことにしました。そして我々会員増強委員はまず行動として、各地区の合同幹事会又は合同会長・幹事会に手分けして出向き、増強について我々の方針を伝えお願いしてまいりました。合同幹事会等に出向いて見ると地区によって運営がまちまちで、地区方針が強く伝わっていないのではと危惧する所も見受けられました。毎月決まった日に開催され地区からの要望や通達事項が伝えられ議論する地区もありますが、いつ開催されるか分からないなどと言われる地区もありました。これでは全県挙げて統一した方針を足並み揃え成功させるのは難しいことを痛切に感じました。このへんの事は何か方法を考える必要があるのではないかと思われました。

出会いの楽しさを知ろう

ロータリークラブには優秀な魅力ある仲間が大勢います。クラブの会員が多くなるほどこのような人達との出会いと親しくなるチャンスが増え、人生を豊かにしてくれると私は実感しました。このような事は会員は皆承知しているものと思います。しかし、会員増強退会防止に関わるとなると協力体制が構築出来ない。これが実態で残念な事です。魅力ある会員の皆様は必ず一人や二人、この人を是非ロータリーに推薦してみたいと思われる人物が居るはずです。今からでも遅くはありません。「会員紹介カード」に記入して会員増強委員会に提案して下さい。そして仲間として迎え入れましょう。時の経つのは早いもので後二ヶ月で今年度は終わります。大勢の仲間に協力して戴きましたが大きな成果が上がらず、そして新しい出会いも多くは望めませんでした。残念でした。私の力不足でした。

退会を防ぐ行動

退会者を少しでも少なくしたい、今年度はこの点に力を注ぐ方針が強調されました。フェローシップ委員会の力強い協力の下に、同じ趣味を持つ者同士で親しくなろうと新たな同好会、二輪車同好会が設立され活動が始まりました。クラブでの退会防止は６月と12月に集中するところに防止策を考えて実行することです。後２ヶ月です。６月退会者が増えない手立てを実行し、仲間の減少を防ぎましょう。各クラブのご健闘を祈ります。

一年を振り返って

フェローシップ委員会
委員長　増谷　信一
（柏西RC）

一昨年前の11月に、当時の櫻木ガバナーエレクトより突然のお電話が有り、地区委員長を受けてくれないかとの内容でした。私は地区への出向は経験が有りませんでしたが、初めての委員長を経験する事に成りました。フェローシップ委員会について、ヒヤリングをさせて頂き委員会の事業方針が決まり、地区研修セミナー・会長エレクト研修セミナー・地区研修協議会と進めて行くうちに、委員会内容も具体化され７月には４人の委員会メンバーが一丸となりスタートをする事が出来ました。

本年度フェローシップ委員会は、五つの大きな目標をたてて活動をして参りました。

①親睦の真の意味を仲間意識を醸成することに置く。
②その手段として一つのテーマを中心にして地区内クラブの垣根を越えて集い、語り合うグループを沢山作る。
③退会防止の手段となり得る。
④ロータリアン以外の参加者を求めることで会員増強の手段となり得る。
⑤その他の事業。

以上の目標を念頭に置き、委員会活動第１弾として「二輪車ツーリング」を企画し発足を致しました。第１回目は館山まで走り発会式を行い『二輪車同好会』が誕生致しました。第２回目は香取神宮へ「初詣ツーリング」を開催致しました。前ロータリアンや会員以外の参加者を得て、会員増強・退会防止につながった事と思います。現在二輪車同好会の会員登録数は33名になりました。これからも会員を増やし、地区二輪車同好会として活動をして参ります。

11月には「フェローシップ交流会」と題して、エド山口氏の基調講演や９グループの趣味別交流会を開催致しました。又、同月に八日市場において「里山歩き」を、快晴の中飯高寺を中心に約64名の参加を得て約５Kmのコースを全員無事に散策する事が出来ました。

本年度の、地区大会では「二輪車同好会」のご協力を頂きまして、大会会場に世界に数台しか無い二輪車４台を展示し、多くの会員が見学をしていました。

今年一年、フェローシップ委員会活動に対しまして、地区内ロータリアンの温かいご支援ご協力を得ました事に大変感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

一年を振り返って

奉仕プロジェクト委員会
統括委員長　嘉規　　洋
（船橋西RC）

奉仕プロジェクト委員会統括委員長をお引き受けした当初は、社会奉仕委員会と国際奉仕委員会が奉仕プロジェクト委員会という認識でいましたが、蓋を開けたら職業奉仕委員会が加わることになり正直戸惑いました。その理由は、社会奉仕活動や国際奉仕活動はプロジェクトを具現化できますが、職業奉仕活動に関しては、具現化は難しく、また、人により見解や認識が異なることがあります。例えば、「出前教室は職業奉仕？社会奉仕？どっち？」などとなります。職業奉仕活動をどのように具現化できるのか？また、社会奉仕活動・国際奉仕活動に対してどう位置づけるのか？自問自答しながら新年度がスタートしました。年度早々の７月、８月に全地区のIMを通じて、奉仕プロジェクト委員会の役割をご理解頂く事と、奉仕プロジェクトの推進を目的として、奉仕プロジェクト委員会のPRをさせて頂きました。その際に、職業奉仕委員会から職業奉仕活動の位置づけを次のように説明しました。「経済的な豊かさが、豊かな心を生みます。豊かな心から、周囲に対する気配りが生まれます。それが職業奉仕なのです。地域社会に対する気配りが社会奉仕であり、世界に対する心配りが、国際奉仕の出発点です。相手を思う心、すなわちサービス（service）です。」これで多くの皆様に、なぜ三委員会が一緒に活動しているかご理解頂けたと思います。

三委員会が一緒に活動したメリットは、職業奉仕委員会が加わったことで、より有意義で盛会理な奉仕プロジェクトセミナーを開催することができたことです。

IMでのPR活動や、ロータリー財団と合同での補助金管理セミナー、地区補助金審査など、新しい試みが多く、何かと戸惑いましたが、三委員会の委員長に支えられながら、一年を終わることが出来そうです。ロータリアンの皆様、ご協力ありがとうございました。次年度も奉仕プロジェクト委員会を宜しくお願いします。最後に、各クラブより３月31日期限でロータリー財団地区補助金申請が行われます。どのような奉仕プロジェクトが申請されてくるのかとても楽しみです。

一年を振り返って

青少年奉仕委員会
統括委員長　鵜沢　和広
（千葉若潮RC）

日頃は、地区ロータリアンの皆様に青少年奉仕関連委員会の事業にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

皆様ご存じの通り、青少年奉仕委員会には、ローターアクト委員会、インターアクト委員会、青少年交換委員会、RYLA委員会の四つの委員会が属しております。地区の委員会予算の半分以上を頂き青少年の健全育成のために毎年、継続して事業を行うという特色をもっております。ただし年度当初、櫻木ガバナーより『既存の事業の継承でも、ロータリーの青少年活動の意味合いと目的をしっかりと意識し、事業をこなすだけの委員会にならないように』とのご要望を頂き、各委員長にお願いして事業の遂行にあたって頂きました。

ローターアクトは４月16日に地区大会に当たる年次大会を行い、色々な事業を通じて会員数の減少を克服すべく努力しております。

インターアクトは８月27日に年次大会、11月11日～14日に台北訪問を終え残す大きなプログラムは指導者養成講習会となっております。

青少年交換は３月26日～28日にスプリングキャンプを行い、これから海外へ派遣する交換留学生の選考を終了し現在、毎月のオリエンテーションを行っております。

RYLAは11月13日～14日にセミナーを開催し70名以上の参加者を集め大きな成果を上げております。セミナーの準備にあたり実行委員会を立ち上げ沢山の方々にご協力を頂きました。

統括委員長としての一年間を振り返り、櫻木ガバナーには良い経験をさせて頂いたと感謝いたします。また、青少年奉仕委員会に属する四委員会と深く係って頂いているクラブとそうでないクラブのギャップの大きさも感じた一年でもありました。

ともかく地区の青少年奉仕委員会の活動について未経験の私でしたが、酒井・岡村両副統括委員長そして櫻井ローターアクト・中澤インターアクト・佐藤青少年交換・黒岩RYLAの各委員長そして委員の方々に支えられ青少年奉仕統括委員長の職を無事に終える事が出来そうです。

米山記念奨学生 奨学金終了式を終えて

米山記念奨学委員会
委員長　堀口　路加
（成田RC）

プレゼントは大切な人にするもの、それは贈る人の心の中にある、相手を大切に思う思いが形になったものです。心が豊かな人は、もらった物が高価な物かどうかを見て喜ぶようなことはしません。世の中にはお金では買えないものがあり、金額では計れない大切なものがあることをよく知っているからです。

人生には行く道を照らしてくれたり、導いてくれるような、忘れることができない出会い、人間関係があり、人と人との出会いには、期待や願い、祈りがあります。そのことがわかった時、プレゼントは金額以上の大きな意味を持ってくるのです。

米山記念奨学会には一年間で14億円もの寄付金が寄せられ、年間730人もの外国人留学生に奨学金を贈っています。米山記念奨学事業の理念と働きに共鳴する全国のロータリアンの期待と願い、祈りがそこには込められています。奨学生の皆さんは奨学金をもらっただけでなく、そこに込められた思いをも受け取ったのです。

カウンセラーや世話クラブのロータリアン、地区委員と一緒に過ごした時間と奨学生にならなければできなかった出会いを通して、ふと…何でロータリアンはこんな自分に親切に、或いは対等に関わって、良くしてくれるのだろうか？と考えた瞬間がなかったでしょうか。そして、いつか自分ももらうばかりではなく、分け与えることができるようになりたい…いつか自分もロータリアンになりたい、そう考えた瞬間があったはずです。どうかその思いを心に温め続けて、いつか実現してください。

卒業式は英語でコメンスメント（Commencement）…新しいことを始めるという意味があります。奨学生には何度も話してきたことですが、奨学期間の終わりと同時に、米山学友としての使命が始まります。受け取った米山奨学生の終了証書をいつも目に見えるところに飾り、その自覚と誇りをいつも持ち続けてください。

カウンセラーとして関わられた皆さんも米山学友の彼ら、彼女らが大きく成長し、活躍する姿を見守り続け、応援し続けてください。それはこの奨学期間の１年、２年よりもはるかに長い歳月と忍耐を必要とする、元カウンセラーと米山学友との新しい関係のはじまりです。

人は多く持っているから豊かなのではなく、多く与えることのできる人が豊かなのです。

一生を終えてのちに残るのは、私たちが集めたものではなくて、私たちが与えたものです。本当の豊かさを知る、真の国際人として日本と世界の架け橋になってください。

地区委員として大変忙しい一年でしたが、奨学生の皆さんと出会えたことは私にとっても素晴らしい人生の出来事でした。皆さんのことを忘れません。

一年を振り返って

RLI推進委員会
委員長　**諸岡　靖彦**
（成田RC）

「企業は人なり」と言いますが、奉仕するロータリアンが進める『ロータリー運動は将に人なり』と申せましょう。2010年規定審議会の採決決議案10－10にあるように**＜新会員も古くからの会員も含め、RI並びに財団の目標、規則、リソースに関する知識が欠如しているロータリアンが多く見られる。これはクラブが徹底した定期研修を継続的に提供していないことに起因している＞**という指摘は当地区でも否定はできないでしょう。我が国の社会もロータリーも今急激な少子高齢化と地域社会の疲弊劣化にみまわれています。若い世代が入会しても、去り往く人は後を絶ちません。ロータリーが今持つリソースをしっかりつかみ直し、元気なロータリーに再生しなければならない情況に立ち至っているのではないでしょうか！

RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）の存在意義はロータリーの活性化と、一人ひとりのロータリー理解を進め、ロータリー運動への参加のモチベーションを高め、クラブを元気にするリーダーシップを養うことにあります。当委員会はRIの多地区合同プログラムであるRLI日本支部の指導の下に、所定のカリキュラムに従って少人数の参加者が相互啓発する討論（セッション）を運営します。参加者は自身の気づきの中から多様で豊かな可能性を含むロータリー観を描くことが出来るようになります。

今年度は次の通り、精力的に活動を進めてきました。結果、前年度までの実績に加えてRLI参加者累計254名（地区会員2,800名の９％）となりました。所定のセッション修了者は130名（同4.5％）、DL資格者は68名（同３％；但し２回目のDL養成講座で上積み見込み）となりました。

1　DL養成講座　８／８(土)
　前年度修了者の研修資格認定　29名の新DL誕生
2　DLスキルアップ・トレーニング　９／５(土)
　セッションに向けてチーム作り　　DL19名参加
3　RLIパートⅠ　10／４(日)
　所定のカリキュラム６セッション実施　32名登録、29名参加；修了３名、DL24名参加
4　RLIパートⅡ　11／21(土)
　同上；　32名登録、19名参加(１名は他地区より)
　修了５名、DL28名参加
5　RLIパートⅢ　12／５(土)
　同上；22名登録、19名参加：修了11名、DL24名参加
6　ＲＬＩ卒後コース　１／30(土)
　基調セミナー、クラブ活性化と地区活性化をセッションで討議、全体セッション；終了後、講師を交え懇親会にて成果を分かち合う
7　第２回DL養成講座　５／14(土)予定
　今年度修了者を含めて新しいDLを養成する

次年度以降に向けて、RLIを地区に浸透させてゆくための課題を列挙いたします。

1．RLIの意義、目的と参加して得られる効果についてPRを強化すること
2．RLIの運営について、地区組織を挙げて推進体制を整備すること
3．毎年度の修了者を地区やクラブの活性化の力とするよう仕組みづくりを進めること
4．地区リーダーの研修、育成について先進地区に範をとり、土台をつくること
5．指導者育成を地区戦略計画に明記して、RLIを会長エレクト研修に組み込むこと

一年を振り返って

地区研修委員会
副委員長　**堀内　正一**
（木更津RC）

従来パストガバナーによる研修リーダー・サブリーダーで構成されていた研修委員会を今年度は委員を配置し、目的・任務である地区チーム研修セミナー・会長エレクト研修セミナー・地区研修協議会の企画支援、そしてクラブ研修リーダー・クラブレベルの研修の為に、新しい形の研修委員会が設置されました。

今年度は、手始めに下記研修セミナーを企画・実施致しました。

会長エレクト研修セミナー　　2015年３月28日
　基調講演　山田研修リーダー
　テーブルディスカッション
　　第１部会の話題　クラブ会長のあるべき姿
　　第２部会の話題　クラブのあるべき姿
　　第３部会の話題　RIテーマ　地区行動目標推進について
　　会員増強と問題点への対処
　アンケートの実施（地区ホームページに掲載）

クラブ研修リーダーセミナー
　2015年７月18日　151名参加
　基調講演　山田研修リーダー
　テーブルディスカッション
　　第１回の話題　研修リーダーの役割・新会員オリエンテーション・入会式等
　　第２回の話題　ロータリーの歴史・ロータリーの目的・組織規程等
　アンケートの実施（地区ホームページに掲載）

新会員研修セミナー（入会後３年未満の会員）
　2015年10月12日　150名参加
　基調講演　山田研修リーダー
　テーブルディスカッション
　　第１回話題　ロータリークラブに入会しての感想
　　例会100％出席について･ロータリーの友誌について等
　　第２回話題　クラブで実施している奉仕活動・新会員を紹介する方法
　　Ｒ財団・米山記念奨学金等
　アンケートの実施（地区ホームページに掲載）

上記３回のセミナー参加者からは、テーブルディスカッション形式を採用したことで、他クラブのクラブ運営や奉仕活動の事例等お互いに有意義な情報交換が出来たとの評価を頂きました。地区行動目標である「原点を知り、考える」の原点とは何かをロータリアンひとりひとりが考え、改めてロータリーの原点を知る良い機会になったのではないかと思います。

それぞれのセミナーで、テーブルディスカッションの司会役をされたガバナー補佐･会員の皆様には、ご協力頂き大変感謝申し上げます。

ロータリー理念研究委員会発表・第11号

ガバナー月信第11号と第12号は、櫻木英一郎ガバナーと５名の委員が忌憚のない座談会を開催した報告文の発表としました。一年間掲載の場を頂き、委員会活動ができましたことに感謝しています。

ロータリー理念研究委員会　海寶　勘一
（千葉西RC）

◇平山　勝巳（千葉若潮RC）

私は職業奉仕とはシェルドンの唱えた第二標語そのもののような気がします。この標語はロータリーソング＜R.O.T.A.R.Y＞の歌詞の中にもあり、多くの会員に知られております。もしこの第二標語がなく第一標語のみであったらロータリーは道徳的色彩が強くなり今のような発展はなかったのではないかと考えております。また職業奉仕を語るうえでハーバート・テーラーの＜四つのテスト＞も重要です。この標語は今でも多くの会員に愛されております。1915国際大会で議決された＜職業倫理訓＞は1980年の規定審議会で削除されましたがその考え方は今でも継承されていると思っております。直木太一郎初め理論家といわれる多くの人達がその著書においてロータリーにおける職業奉仕の重要性について力説しております。地区の指導者の中にもロータリーにおける職業奉仕こそ真の奉仕活動と考えておられる方がたくさんおられます。このような現状を見るとロータリークラブの本質は今でも職業奉仕的実践活動ということが言えるのではないかと私は考えております。この個人奉仕の考え方は他の奉仕団体にはないロータリー独特の考え方です。社会奉仕につきまして私は、援助を必要とする身近な人たちをクラブ（団体）として支援するということだと思います。それは人間として当然のことであります。社会奉仕には二つの側面があると私は考えております。一つは社会奉仕を行うことはクラブの使命であり目的であるということです。もう一つの側面は社会奉仕活動をクラブで行うことにより、会員同士の連帯感、会員の満足感、会員間に友情が芽生えてくるということであります。そのことがクラブ を活性化し組織を維持し組織を発展させる原動力になるということです。すなわちクラブを維持し発展させるための手段として社会奉仕活動は必要なのであります。職業奉仕と社会奉仕が車の両輪になって回転していかないとクラブの発展は望めなと思います。

◇大内　啓（柏南RC）

月信への寄稿に当たり、ロータリーの理念に付いてはさまざまな考えをお持ちの方々がいらっしゃいますので、私的な意見を挟むことで、排他や不寛容な文章になってはならないと思っています。先達の歴史的文章を紹介することに留めようと思いつつも、大した知識もないまま自身の人生観的な思いを書き加えてみました。我々は職業人の集まりであるから、会員各々が日々の事業の中に職業奉仕の理念を取り入れ実践し、その結果、社会に大きな信頼と善行の影響を与えられることを体験してきました。例えば商取引を例にとれば、売り手と買い手の双方に利益と満足を与える関係性が保たれなければ商売の発展はありえない。買い手は商品と満足を手に入れ、売り手は代金と買い手からの感謝を受け取れるという売り手と買い手の間に相互信用を築くことが必要であり、常に商取引には高い倫理観が求められています。突き詰めれば職業奉仕の精神「相手の立場に立って相手に思いを寄せる心」が不可欠となり、これをロータリーの奉仕概念としたロータリアンが、それぞれの事業に於いて愚直に実践することにより社会に大きな貢献をしてきたからだと思う。しかし、グローバル化の弊害として急速な経済の発展に人のモラルが追い付かず、社会全体で行動規範の劣化が進んでいるように思われる。現代社会においては、ますますロータリーの職業奉仕が貴重で不易な理念と思えてくる。ところが職業奉仕の理念を絶対不易と信じているのは日本のロータリアンくらいらしい。世界的な風潮は職業奉仕の理念「相手の立場に立って相手に思いを寄せる心」はお題目と捉えて、それぞれの事業や地域社会で、また国際社会に於いては、様々な活動を実践させることが国際ロータリーの基本的なスタンスらしい。この発想は実に明快ではあるが何か釈然としない。それはロータリーとは人間形成する精神的修養の場であり、単なる奉仕団体やボランティア団体でないと信じる、強い矜持が己にあるからだと思います。

◇島　正彦（館山RC）

櫻木ガバナーより理念研究委員会は事業プロジェクトと両輪のように、理念を確認しながら事業の実践を目指すために設置したとの再確認をした座談会でした。ロータリーを語るとき様々な考え方が存在することを再認識しました。ロータリーの理念としてService above self,One profits most who serves best、あるいはThe Four-way Testなどが我々に提示されています。更には職業奉仕と社会奉仕、国際奉仕などとの優先順位などが議論されます。私はこのような議論の中で自らの利益を優先する欲求と、他者の利益を優先することとの葛藤の中で、関係する他者のためを常に考え、実践するということをロータリアンとして最も大切にしたいと考えます。それは仏教の世界で言う「自利とは利他をいう」という事と同一であると思います。組織としてのロータリークラブを維持存続するために幅広い考えの方たちを迎えながら、ロータリーの説く「寛容」という行動規範の中で他者のために奉仕することを身に付けられた人物を１人でも多く育てるのがロータリーの矜持であり魅力となることを願います。そういう意味ではロータリーはまさに「ひとづくり」であるとも結論付けても良いのではないでしょうか。ロータリアンとして成熟することが職業でも成功し、商売も繁盛すると思われるようになったら良いですね。

ロータリー理念研究委員会
海寶勘一（千葉西）、平山勝巳（千葉若潮）、
大内　啓（柏南）、島　正彦（館山）、松田泰長（成田）

文　庫　通　信（343号）

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約２万４千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

「ロータリアンの矜持」

◎「ロータリアンの矜持」　藤川享胤　2015　1p（D.2800月信）
◎「ロータリーの親睦」　松田泰長　2016　1p（D.2790月信）
◎「親睦の真意は」　櫻木英一郎　2016　1p（D.2790月信）
◎「“そよ風に 稲田のかおり 山深し”（ロータリーに輝きを）」　久野 薫　2015　1p（D.2680月信）
◎「ロータリーのバッジはいいバッジである」　塚原房樹　2015　1p（D.2510 月信）
◎「いま求められる寛容の精神“Toleration”」　塚原房樹　2016　2p（D.2510 月信）
◎「続・国際ロータリーの変質」　新藤信之　2015　20p
◎「『クラブ戦略委員会に関するアンケート』回答要約」　村橋義晃　2016　2p（D.2660月信）
◎「ロータリー創立記念日に纏わる遊び種」　神崎正陳　2010　9P

［上記申込先：ロータリー文庫］

ロータリー文庫
〒105-0011　東京都港区芝公園2-6-15黒龍芝公園ビル３階　TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506
http://www.rotary-bunko.gr.jp　開館＝午前10時～午後５時　休館＝土・日・祝祭日

（公財）ロータリー米山記念奨学会ニュース（ハイライトよねやま193号）

～今月のトピックス～

・寄付金速報　― 2015-16年度もあと３カ月 ―
・新奨学生オリエンテーションスタート
・韓国に米山学友会を母体とした衛星クラブが誕生
・タイ米山学友会が総会を開催　― 新役員が決定 ―
・ネパールで被災者への奨学支援をスタート！

【お知らせ】
・Go Go Seoul! ～【ソウル国際大会情報】～
「米山学友合同懇親会 in Seoul」のご案内

トピックス詳細につきましては、下記アドレスにてご覧ください。
http://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary/pdf/highlight193_pdf.pdf

《今月のピックアップ記事》

韓国に米山学友会を母体とした衛星クラブが誕生

韓国にこのたび、米山学友会を母体としたロータリー衛星クラブが誕生しました！第3650地区セソウルＲＣのもとに創立された新しい衛星クラブの名は、「韓国米山セソウル・ロータリー衛星クラブ」。31人の創立会員全員が、韓国学友会に所属する米山学友です。

３月26日にソウル市内のホテルで開催された創立総会には、学友20余人のほか、李泳鎬（イ・ヨンホ）第3650地区直前ガバナーや朴虎君（パク・ホクン）同地区次期ガバナー、南宮根（ナム・クングン）セソウルＲＣ会長などが出席して、新クラブの門出を祝いました。

創立会長の林基元（リン・キウォン）さん（1989-91／佐野ＲＣ）は、「会員は皆、米山の学友で、ロータリー精神を引き継ぐ人たちです。今後さらに会員を増やし、発展に努めたい」と、意欲を見せます。

また、韓国学友会会長を務める全炳台（ジョン・ビョンテ）さん（1980-83／仙台北ＲＣ）は、「クラブ創立を検討・準備する過程で学友同士が親しくなり、学友会の関係がとても良くなった。学友会と衛星クラブ合同の奉仕活動やシンポジウムなど、互いに協力して新しい活動を計画していきたい」と、語りました。

寄付者紹介（敬称略）

ロータリー財団寄付　年次寄付（マルチプル・ポール・ハリス・フェロー）

寺嶋　哲生
（柏ＲＣ）
６回目

榎本　洋史
（柏西ＲＣ）
５回目

風澤　俊夫
（柏ＲＣ）
３回目

根本　健一
（柏ＲＣ）
３回目

溜川　良次
（柏ＲＣ）
３回目

長谷川秀夫
（柏ＲＣ）
３回目

根本　孝英
（柏ＲＣ）
３回目

常井　典夫
（柏ＲＣ）
３回目

佐野　正子
（浦安ＲＣ）
３回目

鈴木　荘一
（君津ＲＣ）
１回目

（ポール・ハリス・フェロー）

関　　学
（柏ＲＣ）

今山　利猛
（柏ＲＣ）

木村　　仁
（柏ＲＣ）

周藤　行則
（浦安ＲＣ）

恒久基金（ベネファクター）

中山　浩一
（柏ＲＣ）
１回目

米山功労者

成田　　温
（成田ＲＣ）
４回目

山田　珠子
（佐倉ＲＣ）
２回目

深堀　伸之
（成田ＲＣ）
１回目

島田　秀貴
（柏ＲＣ）
１回目

新ロータリアン（敬称略）

津加　和彦
（千葉ＲＣ）
損害保険
２月22日入会

田島　　修
（市原中央ＲＣ）
社会保険労務士
３月１日入会

荒井　成喜
（千葉港ＲＣ）
生命保険
３月２日入会

川島浩一郎
（船橋西ＲＣ）
食品加工
３月４日入会

小関友紀子
（旭ＲＣ）
農機販売
３月４日入会

伊東　篤史
（旭ＲＣ）
介護サービス
３月４日入会

村上　　進
（君津ＲＣ）
産業用整備洗浄業
３月７日入会

片野　信介
（市川シビックＲＣ）
構内電気工事
３月14日入会

角川　僚一
（千葉中央ＲＣ）
証券業
３月17日入会

竹村隆一郎
（柏南ＲＣ）
生命保険
３月29日入会

橋本　郁男
（袖ヶ浦ＲＣ）
精密機械
４月４日入会

越川新太郎
（船橋ＲＣ）
弁護士
４月５日入会

井内　龍男
（銚子東ＲＣ）
大学
４月５日入会

木曽　　功
（銚子ＲＣ）
大学
４月６日入会

佐野　直人
（茂原ＲＣ）
リゾート施設
４月７日入会

浅野　吉朗
（大原ＲＣ）
コンクリート製品製販
４月７日入会

長田　研自
（千葉ＲＣ）
セキュリティシステム
４月11日入会

岩山　眞士
（千葉ＲＣ）
製鉄業
４月18日入会

宮腰　次郎
（千葉ＲＣ）
ホテル
４月18日入会

ＲＩ第2790地区（千葉）2016年３月出席・会員数報告

分区	クラブ名	出席率 %	例会数	会員数 7/1	女	当月	女	増減
第1分区	市川	100.00	4	39	0	40	0	1
	市川東	100.00	4	41	0	41	0	0
	市川南	79.00	4	16	2	17	2	1
	浦安	93.20	4	35	1	36	2	1
	市川シビック	84.60	3	36	0	36	0	0
	浦安ベイ	74.99	4	16	0	14	0	△ 2
	平均	88.63	3.83	30.50	0.50	30.67	0.67	1
第2分区	船橋	79.63	4	23	0	28	0	5
	船橋西	90.09	4	41	7	40	7	△ 1
	鎌ヶ谷	89.21	5	29	2	32	2	3
	船橋東	88.21	4	28	1	31	2	3
	船橋南	81.82	4	14	2	16	4	2
	船橋みなと	83.78	4	17	4	22	5	5
	平均	85.46	4.17	25.33	2.67	28.17	3.33	17
第3分区A	千葉	86.46	3	66	1	72	2	6
	新千葉	78.70	5	50	0	52	0	2
	千葉西	89.64	4	59	4	57	3	△ 2
	千葉中央	77.99	5	37	0	34	0	△ 3
	千葉幕張	83.11	4	35	2	38	2	3
	千葉東	78.72	2	31	3	34	3	3
	千葉若潮	71.11	5	30	1	31	1	1
	平均	80.82	4.00	44.00	1.57	45.43	1.57	10
第3分区B	千葉南	72.95	3	49	6	53	7	4
	市原	81.00	5	41	2	41	2	0
	千葉港	83.70	4	21	2	25	2	4
	市原中央	83.90	5	47	2	49	2	2
	千葉北	69.00	5	21	1	22	1	1
	千葉緑	56.09	5	25	2	28	2	3
	平均	74.44	4.50	34.00	2.50	36.33	2.67	14
第4分区	木更津	74.32	4	27	3	29	3	2
	上総	70.90	5	17	0	17	0	0
	富津	50.00	4	9	0	10	0	1
	富津中央	80.99	5	26	1	27	1	1
	木更津東	86.59	5	42	0	42	0	0
	君津	97.22	3	43	1	47	2	4
	袖ヶ浦	92.88	3	23	3	23	3	0
	富津シティ	81.30	5	14	1	15	1	1
	平均	79.28	4.25	25.13	1.13	26.25	1.25	9
第5分区	館山	79.86	5	56	3	55	3	△ 1
	鴨川	88.57	5	33	7	33	7	0
	勝浦	94.60	4	33	4	37	4	4
	千倉	77.50	4	10	2	10	2	0
	鋸南	90.76	5	14	1	13	1	△ 1
	館山ベイ	64.91	3	20	0	20	0	0
	平均	82.70	4.33	27.67	2.83	28.00	2.83	2
第6分区	茂原	92.39	4	64	3	65	3	1
	東金	93.20	5	22	1	21	1	△ 1
	大原	77.50	4	12	1	10	1	△ 2
	大多喜	69.98	5	6	1	6	1	0

分区	クラブ名	出席率 %	例会数	会員数 7/1	女	当月	女	増減
第6分区	成田空港南	78.26	3	37	0	38	0	1
	茂原東	91.66	4	22	2	22	2	0
	茂原中央	82.35	4	13	2	17	2	4
	大網	71.33	5	29	1	29	1	0
	東金ビュー	78.60	4	20	1	21	1	1
	平均	81.70	4.22	25.00	1.33	25.44	1.33	4
第7分区	銚子	72.41	5	44	4	40	4	△ 4
	旭	64.50	4	43	2	44	3	1
	八日市場	81.75	4	38	2	40	2	2
	銚子東	71.29	5	39	2	36	2	△ 3
	平均	72.49	4.50	41.00	2.50	40.00	2.75	△ 4
第8分区	佐原	72.93	4	47	0	48	0	1
	多古	72.85	5	14	0	15	0	1
	小見川	83.81	5	22	0	23	0	1
	佐原香取	73.91	3	25	1	25	1	0
	平均	75.88	4.25	27.00	0.25	27.75	0.25	3
第9分区	成田	69.75	4	61	0	59	0	△ 2
	八街	87.14	3	30	1	32	2	2
	印西	84.47	5	23	0	23	1	0
	白井	63.15	3	23	0	19	0	△ 4
	富里	66.66	4	27	0	30	0	3
	成田コスモポリタン	71.99	4	68	0	69	0	1
	平均	73.86	3.83	38.67	0.17	38.67	0.50	0
第10分区	柏	81.00	4	51	10	53	10	2
	我孫子	70.83	4	24	1	24	1	0
	柏西	83.50	3	62	5	63	5	1
	柏東	78.70	5	29	3	33	4	4
	柏南	66.00	4	33	5	33	5	0
	平均	76.01	4.00	39.80	4.80	41.20	5.00	7
第11分区	習志野	75.75	4	27	1	26	1	△ 1
	八千代	88.00	4	46	0	48	0	2
	佐倉	65.71	5	18	2	22	3	4
	八千代中央	85.90	5	28	1	29	2	1
	四街道	76.10	5	23	2	25	2	2
	習志野中央	76.30	4	47	6	48	6	1
	佐倉中央	61.90	5	19	3	21	4	2
	平均	75.67	4.57	29.71	2.14	31.29	2.57	11
第12分区	松戸	86.13	4	57	0	58	0	1
	松戸東	87.68	4	46	0	46	0	0
	松戸北	82.58	5	37	0	38	0	1
	松戸中央	73.39	5	39	6	43	6	4
	松戸西	80.83	4	30	0	30	0	0
	平均	82.12	4.40	41.80	1.20	43.00	1.20	6
第13分区	野田	79.98	3	58	8	59	8	1
	流山	81.25	5	16	4	16	4	0
	野田東	84.08	4	31	0	28	0	△ 3
	流山中央	86.82	4	22	2	23	2	1
	野田セントラル	83.70	4	24	0	24	0	0
	平均	83.17	4.00	30.20	2.80	30.00	2.80	△ 1

クラブ数　84RC	2015年７月１日	地区会員数	2,711人	当月平均出席率	80.75％
	2016年３月末日	地区会員数	2,789人	増減	＋78
	2015年７月１日	地区女性会員数	154人	女性会員増減	＋14
	2016年３月末日	地区女性会員数	168人		

物故会員（敬称略）

酒井　孝夫（船橋西ＲＣ）
逝去日：2016年３月25日（享年63歳）
入会日：2002年９月13日
ロータリー歴
2010-2011　クラブ幹事
2012-2013　クラブ会長

森田　　力（松戸ＲＣ）
逝去日：2016年４月５日（享年83歳）
入会日：1977年10月５日
ロータリー歴

５月のロータリーレート
110円

広報のひろば

みなさん、こんにちは。そろそろ次年度の活動準備も始まり何かとお忙しい日々をお過ごしなのではないでしょうか？まだまだ今年度の活動もたくさんお知らせしていきます。広報委員会へのご要望やアイデアなどありましたら遠慮なくご連絡ください♪

おめでとうございます

千葉西RC創立40周年記念式典
2016年2月27日（土）

寄付しました

松戸ロータリークラブは3月9日（水）元RI会長田中作次様に例会にて卓話をいただきました。これを記念してロータリー財団に50万円寄付いたしました。

このページは地区IT広報公共イメージ委員会で担当しています。何かございましたら気軽にご連絡ください♪

090－1453－5825　　委員長　大谷京子
kyoko@ohkei.co.jp

ご協力ありがとうございました

ロータアクトによる「書き損じハガキでタイの小学生に奨学金を贈る」事業にご協力いただきありがとうございました。

皆様から頂いた3,011枚のハガキを2月27日（金）に千葉県青少年協会へ寄贈させていただきました。これらのハガキは公益財団法人民際センターを通じてダルニー奨学金としてタイの小学生へ贈られ7名の子供たちが中学校で学べる奨学金となります。

幹事長と委員長のつぶやき

堀口：3月12日（土）2015学年度米山記念奨学生の奨学金終了式が無事行なわれました。みなさんありがとうございました。

梶原：米山の奨学生は日本とアジア諸国をはじめとする海外との懸け橋です。この2790地区のロータリーと永く続きますように期待します！皆さんおめでとう！

大谷：みなさん次のステージでもがんばってくださいね♪